

## 9 研究活動と研究環境

### 進捗状況報告

【9.1 研究環境】関西学院大学人文学会が発行する『人文論究』、あるいは文学研究科の各領域（研究室）が発行する紀要において、教員および大学院生・研究員が研究論文や研究成果を公表できるように環境が整えられている。『人文論究』では、これまで専攻領域の教員1人の投稿に対して、同じ専攻領域の大学院生・研究員1人が投稿できるという制度を設けていたが、『人文論究』第56巻2号（2006年9月）より教員1人に対して同じ領域の大学院生・研究員2人が投稿できるように改めた。これによって大学院生・研究員の論文投稿が増加することが期待できる。

総合心理学専攻における人を対象とした実験や調査・臨床研究、および動物実験については、2006年度から当該専攻の教員を重要なメンバーとする委員会によって定められた「人を対象とした臨床・調査・実験研究」倫理規程に基づいて実験等が行われている。

【9.2 研究活動】文学研究科の専任教員が2005年度、2006年度に発表した著書は51冊、論文は133篇である。また、学会発表やその他の業績も99件に及ぶ。科学研究費助成金の助成状況は、2005年度が申請13件、採択3件、補助額6,600,000円、2006年度が申請11件、採択2件、補助額2,800,000円であった。

文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業（学術フロンティア推進事業：2002年度～2006年度）として採択された総合心理学専攻心理学領域を中心とした「先端技術による応用心理科学研究」は、2007年度以降も継続が認められた。また、文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業（産学連携研究推進事業：2003年度～2007年度）に採択されている文化歴史学専攻美学芸術学領域を中心とした「江戸時代の小袖に関する復元的研究」は、2007年度に最終年度を迎えるが、すでにNHK教育テレビなどで成果の一部が紹介され、社会への還元がなされている。

学部	年度	著書	論文	ワーキング 論文	学会報告	学術発表	翻訳	調査報告	書評	評論	事典	辞典	講演	招待講演	特許取得	特許出願
文学部	2001	28	59	14	18	1	5	1	10	1	0	3	6	3	0	0
	2002	28	67	22	25	0	3	3	3	4	2	3	7	3	0	0
	2003	29	55	20	34	4	4	3	7	2	1	1	4	9	0	0
	2004	18	55	15	34	0	0	0	10	3	1	4	6	6	0	0
	2005	29	68	12	27	0	7	0	4	1	1	0	3	1	0	0
	2006	22	34	19	41	0	2	0	5	1	1	0	2	3	0	0

### 学内第三者評価

大学院生の研究成果の公表の場を拡大したことが評価できる。今後は大学院生の研究成果に関するデータを正確に把握することが望まれる。さらに留学や国際学会での報告を進める具体的方策を検討することが望ましいが、それには全学的な支援体制が不可欠である。